

全国の皆さんから9億3,520万6,021円のご寄附をいただきました

市では、「ふるさと納税制度」がスタートした平成20年から「瀬戸内市応援寄附条例」に基づいて、いただいた寄附金を寄附者の意向に沿った事業に活用しています。

令和4年度に全国の寄附者から本市へ寄せられた応援寄附金は、総額9億3,520万6,021円でした。

いただいた寄附金は「瀬戸内市応援基金」に積み立て、寄附金の使い道に沿った事業に活用しています（下表参照）。



令和4年度の実績

（令和4年4月1日～
令和5年3月31日）

寄附件数

47,508件

寄附金額

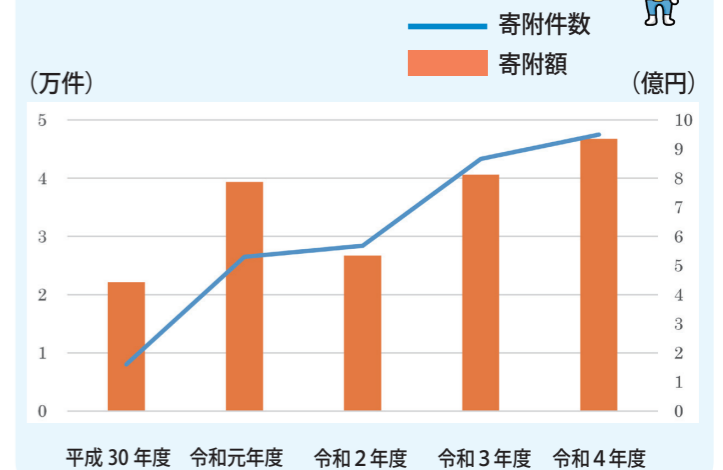
9億3,520万6,021円

※各種プロジェクト

- ・ハンセン病療養所世界遺産登録推進プロジェクト
- ・夢二のふるさと芸術交流プロジェクト
- ・こどもひろばプロジェクト
- ・山鳥毛里づくりプロジェクト
- ・食のしあわせプロジェクト
- ・UNHCRを通じた世界難民支援プロジェクト



寄附件数と寄附額の推移



固秘書広報課 ☎0869-24-7095

■個人からの寄附

寄附金の使い道	件数 (件)	金額 (円)
①産業の振興に関する事業	2,683	49,887,500
②自然または環境の保全に関する事業 (人と猫が幸せに暮らせるまちづくりのために)	7,070 (内 365)	128,873,000 (内 7,656,500)
③医療または福祉の充実に関する事業	4,712	86,543,500
④教育、文化またはスポーツの振興に関する事業	5,416	118,696,500
⑤安全・安心なまちづくりに関する事業	1,261	22,214,378
⑥人権に関する事業	468	7,962,000
⑦SDGsの推進に関する事業	1,099	21,018,500
⑧市民活動団体の支援に関する事業	142	2,593,000
⑨市長が必要と認める事業	15,700	290,378,000
⑩市長が必要と認める事業（※各種プロジェクト）	8,946	190,139,643
合計	47,497	918,306,021

■企業からの寄附

プロジェクト名	件数 (件)	金額 (円)
ハンセン病療養所世界遺産登録推進プロジェクト	3	3,100,000
夢二のふるさと芸術交流プロジェクト	1	3,000,000
こどもひろばプロジェクト	2	1,100,000
山鳥毛里づくりプロジェクト	1	3,000,000
食のしあわせプロジェクト	4	6,700,000
合計	11	16,900,000

令和4年度の主な使い道

- 産業の振興に関する事業
 destinations キャンペーン事業 6,729,000円
- 自然または環境の保全に関する事業
 猫不妊去勢手術費補助金 2,776,000円
- 医療または福祉の充実に関する事業
 タクシー活用助成事業 23,489,000円
- 教育、文化またはスポーツの振興に関する事業
 義務教育修了時進学・就職応援金 3,840,000円
 電子黒板等教育情報機器整備事業 186,457,000円
- 安全・安心なまちづくりに関する事業
 災害対応・特殊消防ポンプ自動車整備事業 91,193,000円
- 人権に関する事業
 ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会補助金 7,830,000円
- 市長が必要と認める事業
 海外支援事業 4,500,000円



陶棺とは

みずおち 水落古墳の陶棺

陶棺は、古墳時代から飛鳥時代にかけて用いられた死者を埋葬する棺です。全国約800カ所所で確認され、そのうち岡山県内での出土が約7割を占めています。

主に焼成方法から土師質と須恵質に分けられ、蓋の形態から亀の甲羅に似ている亀甲型、天井部が家の切妻屋根を模した切妻家形、四注屋根（寄棟）を模した四注屋根形と呼ばれるています。

水落古墳は、邑久町本庄から長船町西須恵に至る丘陵尾根線上に位置した古墳であり、



水落古墳陶棺

現在は消滅しています。正式な調査はされていませんが、陶棺は昭和31（1956）年に畑の開墾中に発見され、郷土史家である長瀬薫により保管されました。

陶棺は総高58センチ、全長84センチ、幅46センチの小ぶ

りな須恵質切妻家形陶棺です。大人が入るには小さく、火葬した骨を納める蔵骨器として使用されたと考えられています。陶棺の製作時期は、7世紀と推定されています。

この陶棺の最大の特徴は、屋根部と身部にヘラ書きされた「南」という文字です。発見時は、この「南」銘を南側へ向けて陶棺が安置されていたと言われています。

陶棺に文字が記された例は、県内では定北古墳（真庭市）出土の陶棺に刻まれた「記」の文字のみで、全国的にも数例しかなく、この地域の文字使用状況を知るうえで極めて貴重な資料です。

水落古墳の陶棺は、現在寒風陶芸会館（牛窓町長浜）で展示しています。

市内では、他にも多くの陶棺が出土しています。

須恵古代館（長船町西須恵）では、桂山十二ヶ峠5号墳（長船町西須恵）出土の須恵質切妻家形陶棺を展示しています。この陶棺は、全長167センチ、総高76センチで、石室内におさめられていた須恵器からも、被葬者と須恵器生産の関係が指摘されています。

また、東京国立博物館には、本坊山古墳（長船町東須恵）出土の蓮華文を飾った陶棺が所蔵されています。この陶棺は、明治16（1883）年に出土したとされ、全長166センチ、総高82センチの須恵質切妻家形陶棺です。このような蓮華文陶棺は、全国的に見ても数例しかなく、地域への仏教浸透の様子を推測できる貴重な資料です。



ヘラ書きされた「南」の文字

その他にも、瀬戸内市から備前市にかけて広がる須恵器生産地である邑久古窯跡群では、陶棺を生産していたことが判明しており、寒風古窯跡群から出土した陶棺の一部を、寒風陶芸会館で展示しています。

市内で出土した陶棺の大半は、須恵質切妻家形陶棺であり、この形態の陶棺は備前地域の吉井川下流から、多く発見されています。この形態の陶棺は、須恵器の製作技法を用いていることから須恵器工人によって製作されたと考えられており、須恵器の主要生産地であった瀬戸内市の特徴を示すものと言えます。